



伊豆市“海と共に生きる” 観光防災まちづくり

伊豆市長 菊地 豊

伊豆市の概況



伊豆市の位置

伊豆市の概況



3

伊豆市の概況



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

HOST VENUE

東京2020大会エンブレム

伊豆ベロドローム



マウンテンバイク

A&F 24h MTB CUP

4

土肥地域の概況



土肥地区全景

駿河湾フェリー



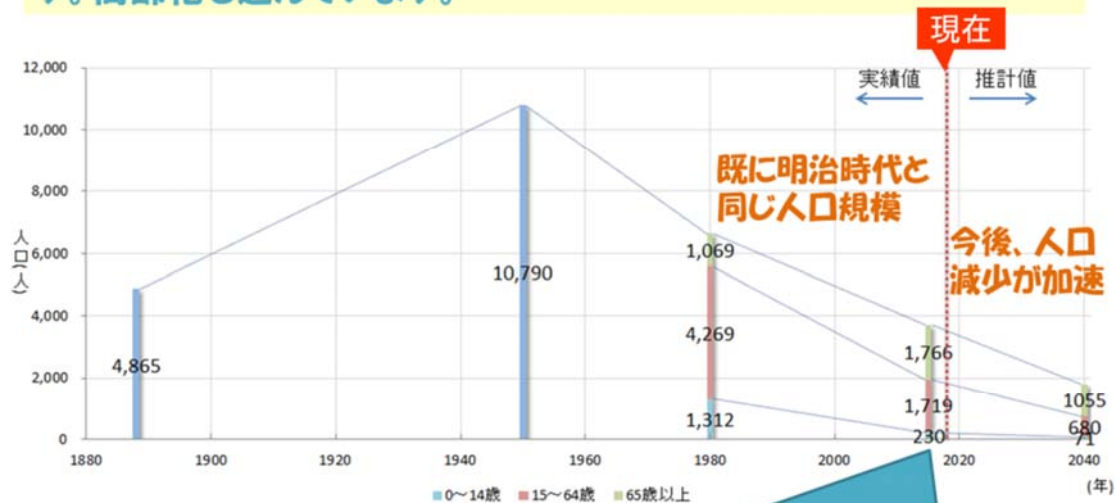
土肥金山・世界一の金塊



世界一の花時計

土肥地域の概況

現在の人口は3,700人台。明治時代と同じ頃にまで減少しています。高齢化も進んでいます。

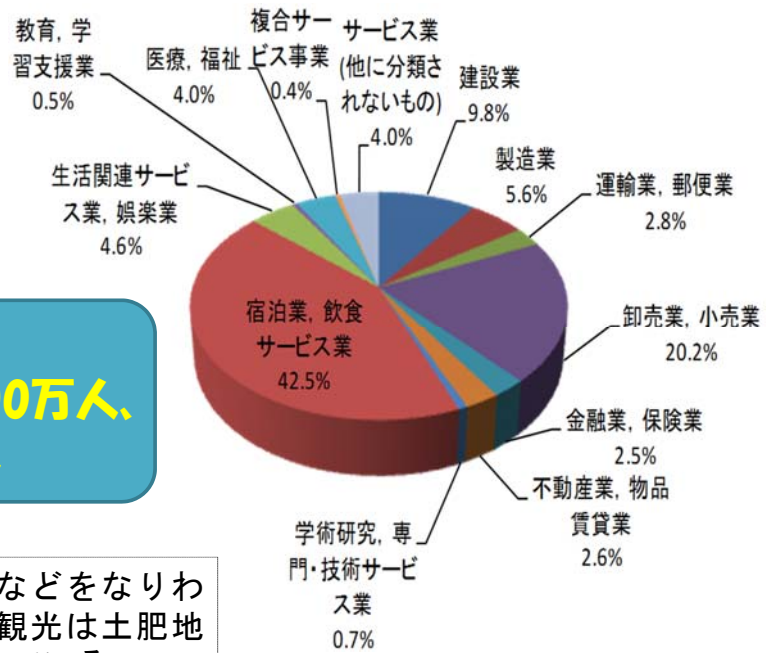


平成27年度国勢調査 人口3,734人、ここ数年1年に100人以上の減少、65歳以上1,766人、高齢化率は、47.5% (超高齢社会)

土肥地域の概況

土肥地域の年間
観光交流人口約100万人、
宿泊客数約35万人

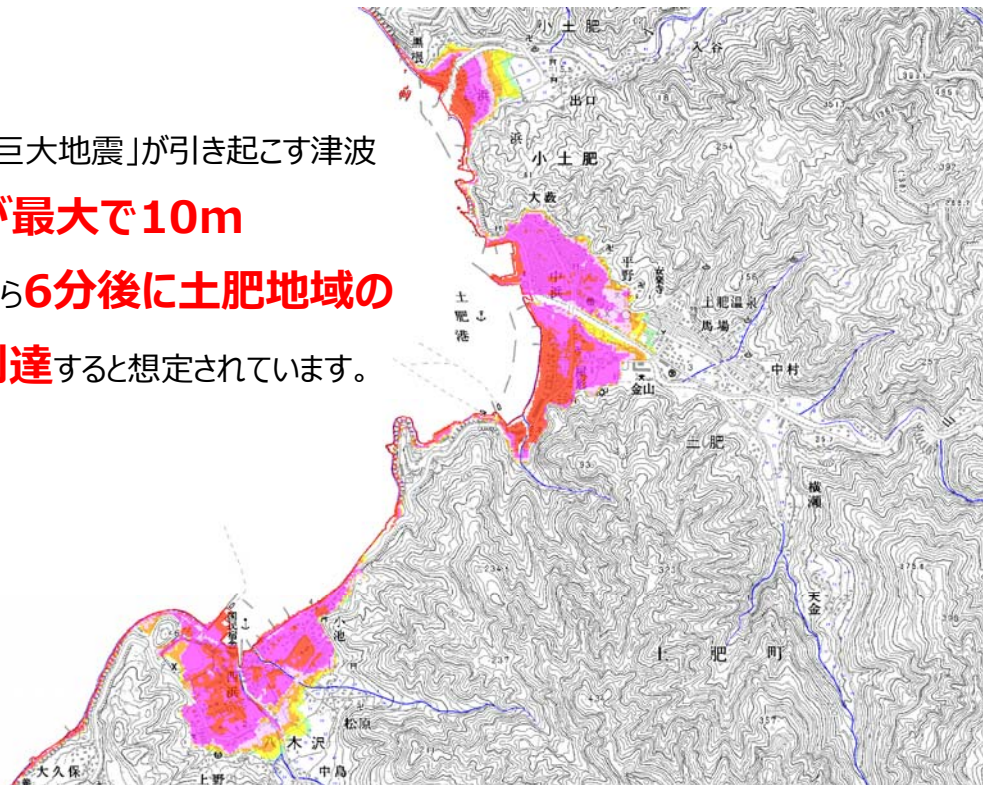
宿泊業やサービス業などをなりわいとする人が多く、観光は土肥地域の主要な産業となっている。



7

津波の想定

「南海トラフ巨大地震」が引き起こす津波は、**高さが最大で10m**地震発生から**6分後に土肥地域の沿岸に到達**すると想定されています。



8

津波の想定



9

津波の言伝え



小下田地区の三島神社は、1498年明応東海地震の津波で被災した集落が、神社より高い場所に移転したため、「下り宮」となったと云う。



小土肥八幡神社

(津波高額研究報告30号2013)



安政東海地震(1854年)の記録
(八木沢地区 妙蔵寺)



安政の地震の津波がここまで来たので、「波尻観音」と呼ばれている。

10

津波対策の状況



11

津波対策の状況



八木沢トンネル避難路 (Yamazaki Tunnel Evacuation Route)



12

津波対策の状況



土肥小学校裏避難路

屋形公民館裏避難路



13

津波対策の状況



土肥こども園



小土肥



八木沢

14

津波対策の状況



15

津波対策の状況



16

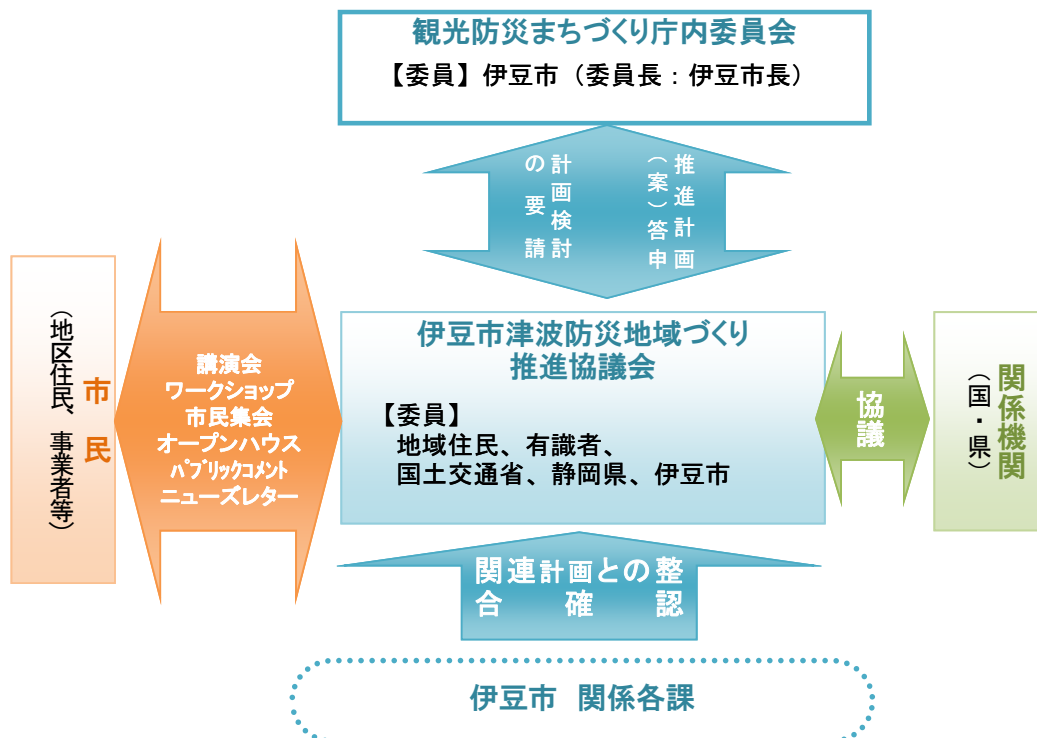
津波対策の状況



屋形地区



推進計画の策定



推進計画の策定



津波防災地域づくり推進協議会



会長 加藤孝明 准教授
(東京大学生産技術研究所)



副会長 原田賢治 准教授
(静岡大学総合防災センター)

推進計画の策定



伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを
みんなで考える会 ワークショップ



推進計画の策定

伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを
みんなで考える会 市民集会



21

推進計画の策定



図5 津波災害警戒区域・津波災害特別警戒区域のイメージ

22

推進計画の策定



オープンハウス



推進計画の策定



推進計画の策定

■全体方針

観光、環境、防災のバランスがとれた海と共に生きるまちづくり

■取組方針

共生する	リスクを理解し、工夫を積み重ねて安全性を高めるエリアの形成
逃げる	住民、観光客、従業員などの安全を確保するための警戒避難体制の構築
生き延びる	地域が早期復旧するための支援機能の向上
守る・減らす	地震・津波・土砂災害による被害を少しでも減らすための防災・減災対策の推進

推進計画の策定

『伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画』の構成

第1章 観光防災まちづくり推進計画の背景・目的

第2章 伊豆市の現状と土肥地域が抱える災害リスク

第3章 観光防災まちづくりを推進するための基本的な方針

「観光、環境、防災のバランスがとれた海と共に生きるまちづくり」

取組方針「共生する」「逃げる」「生き延びる」「守る・減らす」

第4章 推進計画区域

第5章 観光防災まちづくりの実現に向けたハード・ソフト対策

第6章 推進計画実現に向けた今後の進め方

推進計画〈初版〉策定後の取組み



各地区意見交換会



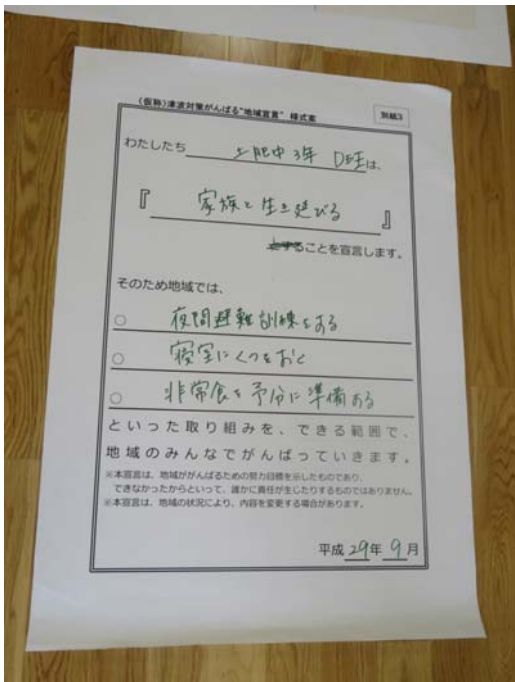
ライフセーバー研修



ケアマネージャー意見交換会

推進計画〈初版〉策定後の取組み

地震・津波対策がんばる地域宣言作成



区域の愛称募集

みなさんに正しく理解していただける

地域を安全にする区域の「愛称」募集します！

応募締切 平成29年10月31日必着！

- 伊豆市では、観光と防災のバランスのとれたまちづくりをするため、平成29年5月『伊豆市』と共に生きる“観光防災まちづくり推進計画（以下、「推進計画」という）』を策定しました。
- 推進計画では、「津波災害（特別）警戒区域の指定を前向きに検討すること」としています。
- 津波災害（特別）警戒区域の指定を前向きに検討する上での課題の一つは、津波災害に対して「地域を安全にする取り組みを進める区域」のほが、津波災害の危険が高い区域と理解されてしまうことです。
- そのため、地域の方や地域へ訪れる方々に、津波災害（特別）警戒区域の意味を正しく理解し、観光と防災を両立している地域であることが伝わるよう、みなさんに「愛称」のアイデアをいただきたいと考え、この「愛称」の募集を行うこととしました。

詳しくは、応募方法や募集事項をご確認ください。

主催：伊豆市津波防災地域づくり推進協議会 編集：伊豆海城士協会

推進計画〈初版〉策定後の取組み



伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを
土肥中生と考える会

推進計画〈初版〉策定後の取組み



推進計画〈初版〉策定後の取組み

第6回伊豆市津波防災地域づくり推進協議会



31

推進計画〈第2版〉策定後の取組み

伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを 土肥中生と考える会

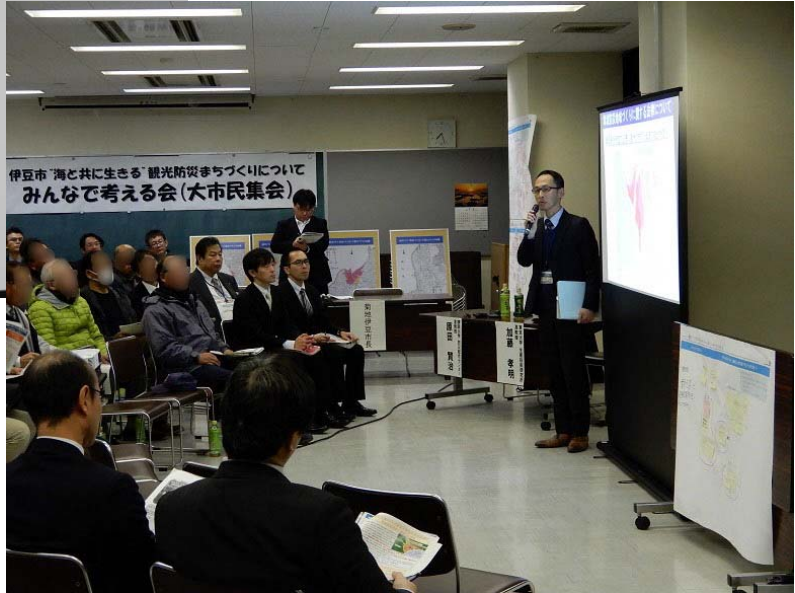


32

推進計画〈第2版〉策定後の取組み

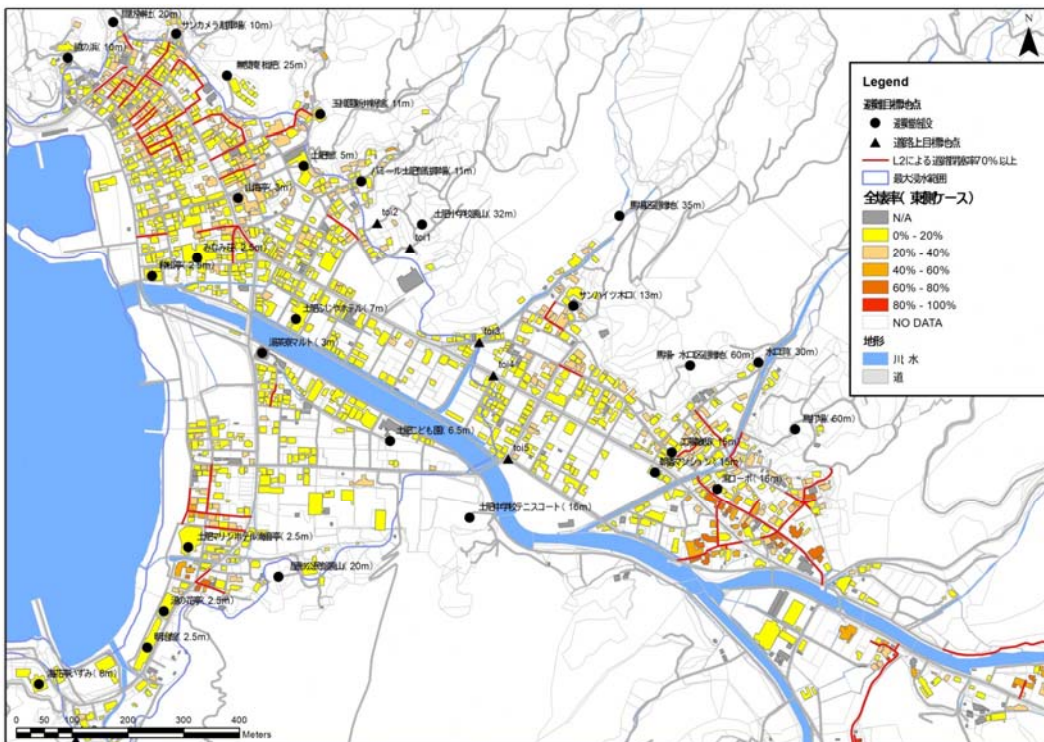


大市民集会(区域指定説明会)



推進計画〈第2版〉策定後の取組み

東京大学による倒壊家屋シミュレーション



推進計画〈第2版〉策定後の取組み



ジャパン・レジリエンス・アワード
(国土強靱化大賞)2018
グランプリ受賞



35

推進計画〈第2版〉策定後の取組み



区域の愛称決定

区域指定が及ぼす
地域のイメージをプラスに転換
するための愛称を設定



36

区域指定後の取組み



愛称決定観光キャンペーン



区域指定・愛称決定の記念イベントで連携して情報を発信！

区域指定後の取組み

宿泊施設連携訓練



観光施設土肥金山連携訓練



H29から毎年実施



観光客と従業員の安全確保のための
避難経路・避難誘導體制を検証

小学校の避難通路に整備した橋の活用



区域指定後の取組み

(仮称) 松原公園津波避難タワー イメージ (案)

施設コンセプト

- 観光防災まちづくりのさらなる活気の創出拠点
- まちや海岸方向からの人の流れを受け入れる丸みを帯びた形態
- 施設の中と外で“見る・見られる”の関係をづくりだす透明感のある構造

用途

- 【3階】
 - アスレチックスタート地点：民間会社の管理を想定
 - 仮設ホール：平常時・災害時に靴をかけ、雨除け、日よけとして活用
- 【2階】
 - カフェ：屋内外の空間を有し、気候に応じた柔軟な利用が可能。スクリーン等設置し、イベント等でも活用
- 【1階】
 - 仮設お土産店「ありがとう」：地域のお土産や周辺への情報発信を行う。購入した食べ物をカフェで食べることも可能。また、1Fの一部開放することで屋内外をつなぎ、お祭り・イベント・海水浴客の休憩所等として活用

【コア】
階段室と備蓄スペースを設置

【松林と一体となったアスレチック】
津波避難タワー3階にアクセスできる

基準水位より高い位置
避難のスペースを確保

基準水位
5.5m

【スロープ】海側・内陸側の2方向からのアクセスが可能。車いすが登れる斜度、2台の車いすが行き交うことができる幅を確保

※本イメージパースは、施設の概念を整理するためのものであり、施設の位置や規模に係る調査等に基づくものではありません。

区域指定後の取組み



41

最後に

土肥桜

みなさまのご来訪を
こころよりお待ちしております

ご清聴ありがとうございました